【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和6年3月7日(2024.3.7)

【国際公開番号】WO2023/188467
【出願番号】特願2023-501791(P2023-501791)
【国際特許分類】
C08J 5/18(2006.01)
【FI】
C08J 5/18 CFD

【手続補正書】
【提出日】令和5年1月11日(2023.1.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
結晶性ポリエステル樹脂（但し、結晶性樹脂として、ＰＢＴを含む結晶性ポリエステル樹脂を除く。）を、樹脂全体量に対して、１０～７０重量％の範囲で含むポリエステル系樹脂組成物に由来したポリエステル系シュリンクフィルムであって、ＪＩＳ　Ｚ　８７８１－４：２０１３に準拠して測定されるＣＩＥ１９７６　Ｌ＊ａ＊ｂ＊色空間の色度座標におけるｂ＊を０．１５～０．５の範囲内の値とし、主収縮方向をＴＤ方向とし、当該ＴＤ方向と直交する方向をＭＤ方向とし、かつ、下記構成（ａ）及び（ｂ）を満足することを特徴とするポリエステル系シュリンクフィルム。
（ａ）ＭＤ方向の応力－歪み曲線における上降伏点応力をＥ１（ＭＰａ）とし、下降伏点応力をＥ２（ＭＰａ）としたときに、Ｅ１－Ｅ２が、下記関係式（１）を満足する。
２３．５≦Ｅ１－Ｅ２≦５０　　（１）
（ｂ）ＴＤ方向における９８℃の温水中で、１０秒の条件で収縮させた場合の熱収縮率をＡ１としたときに、当該Ａ１を３０％以上の値とする。
【請求項２】
構成（ｃ）として、前記上降伏点応力であるＥ１の値を、前記下降伏点応力であるＥ２の値より大きくするとともに、前記Ｅ１を４０～７０ＭＰａの範囲内の値とし、前記Ｅ２を１５～４５ＭＰａの範囲内の値とすることを特徴とする請求項１に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。
【請求項３】
構成（ｄ）として、前記ＴＤ方向における、８０℃の温水中で、１０秒の条件で収縮させた場合の熱収縮率をＡ２としたときに、当該Ａ２を５１％以下の値とすることを特徴とする請求項１又は２に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。
【請求項４】
構成（ｅ）として、前記ＴＤ方向における、７０℃の温水中で、１０秒の条件で収縮させた場合の熱収縮率をＡ３としたときに、当該Ａ３を２０％以下の値とすることを特徴とする請求項１又は２に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。
【請求項５】
構成（ｆ）として、ＪＩＳ　Ｋ　７１２７：１９９９に準拠して測定される、前記ＭＤ方向の引張弾性率をＣとしたときに、当該Ｃを１４００～１８００ＭＰａの範囲内の値とすることを特徴とする請求項１又は２に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。
【請求項６】

構成（ｈ）として、熱収縮前のフィルムの厚さを１０～１００μｍの範囲内の値とすることを特徴とする請求項１又は２に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。

【請求項７】

構成（ｉ）として、熱収縮前のフィルムのＪＩＳ　Ｋ　７１３６：２０００に準拠して測定されるヘイズ値を８％以下の値とすることを特徴とする請求項１又は２に記載のポリエステル系シュリンクフィルム。